

兵庫県保険医協会 但馬支部ニュース

No.137

2013年9月15日発行

発行 兵庫県保険医協会但馬支部
連絡先 〒668-0373 豊岡市但東町久畑1 2 6
高橋診療所 TEL/0796-55-0036 FAX/0796-55-0008

但馬支部第27回総会記念講演

ネット時代の医療情報共有

～柏原赤十字病院での地域医療連携の取り組みについて～



会員、看護師、病院事務長ら29人が参加した

但馬支部は7月21日、但馬長寿の郷で第27回支部総会を開催し、2012年度活動まとめと2013年度の活動方針を採択した。また、支部幹事に山田真義先生（美方郡・歯科）を新たに選出した（3面参照）。その後の記念講演では、柏原赤十字病院院長：片山覚先生を講師に「ネット時代の医療情報共有～柏原赤十字病院での地域医療連携の取り組み」を行い、29人が参加した。参加者より寄せられた感想文を2面より紹介する。

（2面につづく）

(1面からつづく)

感 想 文

「情報共有システム広がり」に期待

「ネット時代の医療情報共有」と題して、講師の柏原赤十字病院院長片山覚先生は医療ICT(情報・共有・通信技術)の現在までの到達点と今後の発展性についてかなり突っ込んで話された。

片山先生のご経歴を紹介すると、30年間、八鹿病院内科に勤務され、特に病院勤務医と診療所開設医との連携に尽力された。現在の南但馬の地域医療連携の基礎をつくられた方でもある。今も養父市で継続している開業医の八鹿病院休日救急輪番システムも先生のご発案であった。その先生が3年前、請われ柏原日赤にその活躍の場を選ばれた時、断腸の思いをしたのは私だけではなかったと思う。



講師の柏原赤十字病院院長
片山覚先生

今回の講演をお聴きし、院長就任当時の紙カルテから現在稼働しているクラウド型電子カルテ・システムを構築するまでの3年間のご苦勞がうかがえる。6キロの体重減少にもかかわらず、2次医療圏と高齢化問題、医療圏間の患者移動と流出率、病院完結型医療の破たんと患者中心型連携の模索、保健・介護・福祉など施設を中心とした生活圏ケアの確立、終末期医療、医療費適正化問題など次々と熱のこもった問題提起があった。こうした課題を解決すべく、地域連携型クラウド電子カルテを駆使しその可能性を模索されている。

ある病院では、せつかく電子カルテを導入しても患者を診ず、ディスプレイとキーボードに長時間格闘する勤務医の姿に患者はがっかりすると聞く。ICT化によって医師も患者も便利になってしかるべきで、患者さんと対話できる時間を増やす技術でなければならない。

セキュリティーを確保しながら地域の医療機関間で患者医療情報を共有しつつ、介護施設とも在宅医療・介護情報を交換可能な、そんな理想を追求したクラウド型情報共有システムの現状と未来について貴重なご講演を聴かせていただいた。先進的な丹波の医療連携の取り組みが今後、但馬にも広がることを期待したい。

【養父市 森 和夫】

兵庫県保険医協会但馬支部役員 敬称略

支部長	新田 誠（豊岡市）	藤井 高雄（豊岡市）
副支部長	下山 均（美方郡）	古澤 倫代（美方郡）
	谷垣 正人（豊岡市）	馬庭 幸二（朝来市）
幹事	森 和夫（養父市）	山田 真義（美方郡・歯科） 新
	坂本 健一（朝来市）	由良 徹也（豊岡市・歯科）
	野田 昌男（豊岡市）	吉田 仁志（豊岡市）
	長谷川正宜（豊岡市）	顧問 谷 尚（養父市）

2012年度活動報告

- 1、第26回支部総会記念講演（7/15）では、新田誠支部長を講師に「但馬の医療に携わって46年～新田誠医師が語る」を行い、公立豊岡病院名誉院長、公立八鹿病院名誉院長、県看護協会役員ら24人が参加した。講演では、新田支部長の但馬での46年間の地域医療実践と保険医運動の経験を語られた。
- 2、シリーズ企画「他科を知る会」を公立日高医療センターで3回（7/26・11/29・5/30）開催、会員や勤務医ら延べ37人が参加した。アドバイザーの同病院顧問：芦田一彌先生や公立豊岡病院整形外科：福本光利先生より、整形外科領域の多数の症例を検討した。参加された先生方から「日常診療に役に立つ」と好評を得ている。
- 3、2012年5月に豊岡市で開業された精神科専門医の高石俊一先生の診療所見学と精神科領域の経験交流会「日常診療勉強会」（8/18）を開催、会員ら5人が参加した。
- 4、会員懇談会「スタッフのやる気を引き出すコーチング術」（講師：嶺山洋子社労士）をテーマに開催、会員ら8人が参加した（10/13）。
- 5、医院経営研究会「医院継承の留意点」（講師：株式会社日本医業総研・猪川昌史氏）をテーマに開催、会員ら9人が参加した（10/27）。
- 6、第15回医院運営なんでも懇談会を開催（11/25）。全基労元中央執行委員長：南鉄雄氏が「支払基金における審査の現状と問題点」をテーマに報告した。会員、病院職員など25人が参加。
- 7、在宅医療点数研究会を下山均副支部長を講師に開催（12/22）。会員ら23人が参加した。
- 8、職員接遇研修会を「クレーム対応のポイントと敬語の使い方」をテーマに開催（4/13）。スタッフら30人が参加、好評を得た。
- 9、医科歯科合同で審査問題勉強会を開催、会員ら17人が参加した。八木秀満理事（医科）、川村雅之副理事長（歯科）、坂口智計（トモカズ）評議員（歯科）が、最近の指導の状況、指導での指摘事項を中心に、カルテ整備など日常診療での留意点について解説した。
- 10、勤務医未入会員対策として、但馬地域の12の公立私立病院院長宛に新田誠支部長より紹介状を得て、全病院を訪問。医局での資料配布など勤務医対策に取り組んだ。
- 11、『2012年病院医師名簿』を発行し、但馬地域に隣接する病院を含む全22病院を掲載、会員から要望のあった高齢者施設一覧も掲載した。但馬地域の病院・医院からは、「病診連携に役に立つ」と好評を得ている。
- 12、協会事務局の現地研修として、但馬支部が研修先として昨年に続き受け入れた（9/15～16）。今回は、公立豊岡病院、豊岡市立高橋診療所（但東町・新田誠支部長）と合橋診療所（但東町・小笠原健次郎先生）を訪問、事務局6人が参加した。
- 13、支部ニュースを8回発行し、活動の報道を行った。
- 14、支部幹事会は7回開催、研究会等の企画立案を行なった。

2013年度活動方針

- 1、病診連携を深める取り組みとして「他科を知る会」（整形外科領域）をシリーズ企画で開催する。また、新たに皮膚科領域をテーマに開催する。
- 2、歯科会員のニーズに応える企画を開催する。また、審査問題など医科歯科一体の企画を定例化する。
- 3、「地域医療を考える懇談会」など、医療・保健・福祉の連携を強める機会を設ける。
- 4、審査指導対策、労務問題、パソコンなど医院の運営に役立つテーマを取り上げ、「会員懇談会」を開催する。
- 5、医院経営研究会を年一回の定例企画として開催する。
- 6、診療現場を会場に、開業医がお互いに経験を気軽に交流できる場として「日常診療勉強会」を開催する。
- 7、幹事による会員訪問を行い、支部ニュース「但馬の息吹」欄で紹介していく。
- 8、開業情報をすばやく入手して新規開業医の100%入会を目指す。また、病院訪問とともに開業医と勤務医が一堂に集える企画を開催し、勤務医に入会を訴える。
- 9、市民公開企画を開催し、地域住民や市民団体との連携を強める。
- 10、協会研究部が主催する臨床研究会の同時中継を但馬地域で開催する。
- 11、支部ニュースの定期発行を目指し、親しみやすい紙面づくりを工夫する。
- 12、魅力ある幹事会運営に務め、若手会員の支部行事への参加を促進させる。
- 13、保険医協会事務局の現地研修として、但馬支部が研修先として受け入れる。
- 14、家族や従業員が気軽に参加できるような場をつくり、互いの交流を促進させる。
- 15、文化的な企画を積極的に取り入れ、環境・人にやさしい支部活動をめざす。

兵庫県保険医協会但馬支部会員懇談会

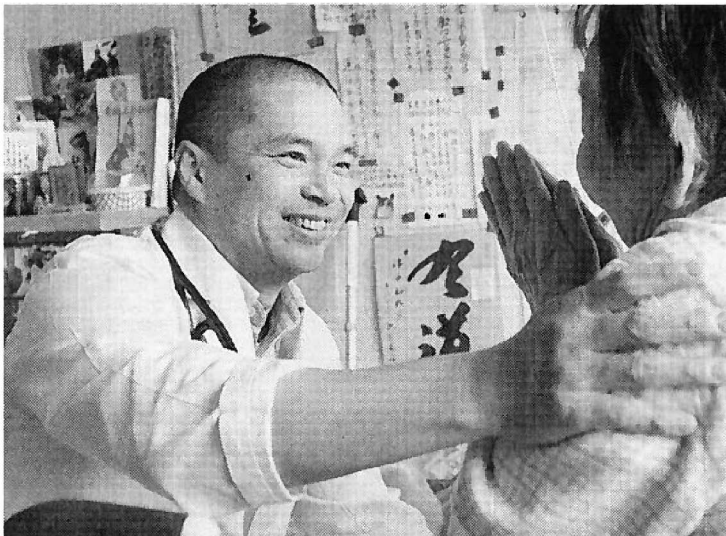
色平哲郎さんと地域医療について語り合う会 「どうなる？これからの地域医療」

日時 10月5日(土)17時30分～

会場 レストラン「ラ・リビエール」(養父市大塚22-1 TEL:079-665-0801)

参加費(食事代) 5,000円 定員 14人

「予防は治療に勝る」、「だれもが受けられる医療」を目標に、戦後から農村医療を実践している長野県の佐久総合病院から、色平哲郎医師をお招きし、地域での保健・医療の取り組みとともに、海外での幅広い知見もふまえて、日本の医療の将来について語っていただきます。色平先生は、地域医療の現場を伝えるために、医学生との自主合宿を毎年行い、NHK 総合テレビ「にっぽんの現場」でも特集されました。



色平 哲郎(いろひら てつろう)さん
内科医、1960年神奈川県横浜市生まれ。東京大学中退後、世界を放浪し、医師を目指し京都大学医学部へ入学。90年同大学卒業後、長野県厚生連佐久総合病院、京都大学付属病院などを経て長野県南佐久郡南牧(みなみまき)村野辺山へき地診療所長。98年より08年まで南相木(みなみあいき)村診療所長をつとめた。現在佐久総合病院地域医療部地域ケア科医師。

外国人HIV感染者・発症者への「医職住」の生活支援、帰国支援を行うNPO「アイザック」の事務局長としても活動を続ける。こうした活動により95年、タイ政府より表彰を受ける。

著作は『大往生の条件』(角川新書 03年1月)、『命に値段がつく日 所得格差医療』(中公新書ラクレ 山岡淳一郎氏と共著 05年6月)、「医者要らずと医者嫌い」～専門家が語る介護保険1年～、『介護保険をまるごと使う本2001』(信濃毎日新聞社収載)など。

但馬支部会員懇談会「色平哲郎さん講演会」(10/5・土)

参加申込 FAX 078-393-1802

※席に限りがございますのでお手数ですが事前の申込お願いいたします

参加します () 人)
医療機関名 ()
ご氏名 ()